

愚鈍を克服した独創の剣士 大石進

5年後に明治維新をひかえた文久3(1863)年の11月19日、「武楽先生」と親しまれた一代の剣士が、筑後柳河藩でひっそりと、67歳の生涯を閉じました。

一般には、本名・大石進の名のほうを通りがいいかもしれませぬ。天保年間(1830~1844)、5尺3寸(約1.6m)の長竹刀をひっさげて江戸に乗り込むと、江戸中の一流剣士をつぎつぎと打ち負かし、「大石旋風」を巻き起こした人物として知られています。

大石の家は、代々柳河藩に仕え、愛洲陰流剣術と大島流槍術の指南役をつとめていました。しかし、体の大きな大石は、剣にスピードがなく、御前試合に出場しても負けることが多く、とても父祖の名跡を継げる力量ではありませんでした。ところがあるとき、剣術の試合で屈辱的な敗北を喫した大石は、猛省の中で、「自分には突き技こそが、最も

体格に相応しているのではないか」と考え、天井から手まりを吊して、突きの稽古に専念し始めます。このとき体格に合わせて、長竹刀を用いたのが、のちに大石に幸いしました。

まずは諸手突き、ついで左利きを活かした左片手突きを執拗に繰り返します。また、突き損じたときには、胴斬りがいい、とその稽古も併用しました。

大石は24歳で大島流槍術の免許を許され、それから2年のうち、病床の祖父から愛洲陰流の免許皆伝を授けられました。30代の半ばで江戸詰になった大石は、高名な剣士を訪ねては、次々と試合を挑んでいきます。

そして、破竹の勢いで勝ち続けました。さしもの練兵館・神道無念流の斎藤弥九郎も、その腕前に恐れをなし、試合を拒否したといわれています。玄武館の北辰一刀流・千葉周作は、桃井春蔵の検証の



大石神影流遺跡 (大牟田市宮部)

と、大石に立ち合って、引き分けました。しかし、これには諸説があります。

幕末維新の英傑・勝海舟はこのときの模様を、「ご一新以上の騒ぎだった」と語っています。

大石はのちに、「幕末の剣聖」と呼ばれる男谷精一郎とも試合をしています。ときに大石37歳、男谷は36歳でした。

試合は一度では決着がつかず、再試合となり、男谷から大石が一本の勝ちを得ます。帰国後、男谷を破った功績により、大石は加増され、自らもほどなく、これまでの工夫をも

とに「大石神影流」を創始します。晩年、大石は勝利の秘訣について、次のように語りました。

「剣は自らにあわせて行うものであり、建て前や伝統にしばられていては意味がない。自らの体格、力量にあわせて、最善と思う技を磨くべきである」

「長竹刀の大石進」 邪道の剣の代名詞のように見る人もいますが、右のような道理は見逃すことができません。やはり彼は、歴史に名を残す一流の剣士といえるでしょう。

■文Ⅱ 加来耕三 (つづく)



3月から可燃ごみの計測がスタート シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④

みやま市との建設負担割合を決める可燃ごみの計測がスタートして3カ月が経過しました。両市のごみの量はどうなっているのでしょうか。また、さらなるごみ減量を目標として、延期になっていた決起大会を開催します。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 (☎88・8963)



ごみ分別アプリ

2カ月の可燃ごみの割合は柳川市74%、みやま市26%

3月から本格稼働した有明ひまわりセンター。柳川市とみやま市の建設負担割合は、3月から1年間で両市から出される可燃ごみの割合で決定します。3、4月の市内の可燃ごみの量は2374トン(前年同月2808トン)でした。一方、みやま市の可燃ごみの量は836トン(前年同月1084トン)。可燃ごみの割合は、本市74%、みやま市26%でした。建設負担金の割合は本市70%、みやま市30%と推計しています。前年と比較するとごみの量は着実に減っていますが、みやま市のごみの量は柳川市を上回るペースで減少してい

3月の可燃ごみの量

| | |
|---------------|---------------|
| 柳川市 1194トン | みやま市 417トン |
|---------------|---------------|

4月の可燃ごみの量

| | |
|---------------|---------------|
| 柳川市 1180トン | みやま市 419トン |
|---------------|---------------|

柳川市とみやま市の建設負担金の割合の現状

| | |
|------------|-------------|
| 柳川市 74% | みやま市 26% |
|------------|-------------|

ます。これまで以上に資源物の分別や生ごみの水切りなどを心がけて、ごみの減量へ協力をお願いします。

6月25日に市民文化会館で ごみ減量決起大会を開催

さらなるごみ減量を達成するため、延期になっていた「柳川市ごみ減量決起大会」を開催します。当日は、平成30年から続けてきたごみ減量大作戦の成果を発表。また、記念公演では、ごみ清掃員であり、お笑い芸人の滝沢秀一さんから、ごみ収集現場の実情や収集員目線で考えるごみ減量へのビジョンを語ってもらう予定です。参加者にはささやかなプレゼントがありますので、ぜひ足を運んでください。

- 日時 6月25日(土)、午後2時20分開演(開場は20分前)
- 会場 市民文化会館「水都やながわ」
- 参加費 無料(申込不要)

決起大会 記念公演



滝沢秀一さん

【プロフィール】昭和51年生まれ。平成10年に西堀亮さんとお笑いコンビ「マシンガンズ」を結成。芸人を続けながら平成24年にごみ収集会社へ就職し、ごみ収集を通じた体験などをSNSで発信して注目を集めている。令和2年、環境省「サステナビリティ広報大使」に就任

た体験などをSNSで発信して注目を集めている。令和2年、環境省「サステナビリティ広報大使」に就任